

## 協議会の活動

## 活動紹介

## 協議会の活動

令和7年度「新しい東北」官民連携推進協議会では、震災の教訓と記憶を次世代へ継承するため、宮城県において「あの時の私に伝えたいこと～震災の記憶を未来へ～」をテーマにフィールドワークを実施しました。

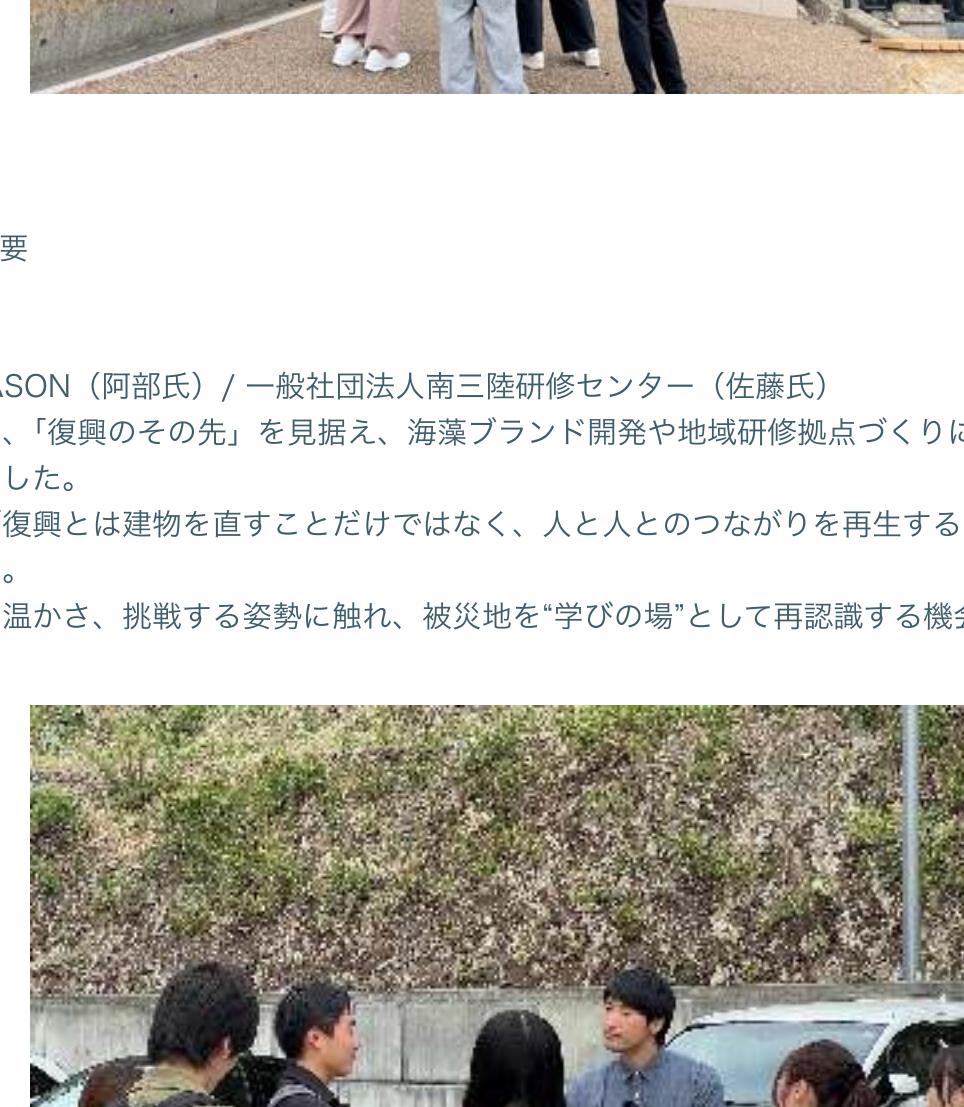
● 活動紹介

● 特集記事サイト

高校生・大学生が共に学び、震災当時に学生だった方々を取材。その証言をデジタルアーカイブとして記録し、Googleマップ上で動画を閲覧できる新しい伝承の形を構築する予定です。

2025年10月5日（日）、多賀城高等学校の生徒が作成した「津波伝承まち歩き」コースの体験を皮切りに、学生たちは県内沿岸部の3コースに分かれて取材を実施しました。

被災地の現場に立ち、地域の方々の言葉を直接聞くことで、震災を「過去の出来事」ではなく「震災の記憶と教訓を伝承すべきもの」として捉える契機となりました。



## 3 コースの概要

## 南三陸コース

訪問先：SEASON（阿部氏）/ 一般社団法人南三陸研修センター（佐藤氏）

南三陸町では、「復興のその先」を見据え、海藻ブランド開発や地域研修拠点づくりに取り組む人々に取材を行いました。

参加学生は「復興とは建物を直すことだけではなく、人と人とのつながりを再生することだと感じた」と語りました。

地域の人々の温かさ、挑戦する姿勢に触れ、被災地を“学びの場”として再認識する機会となりました。



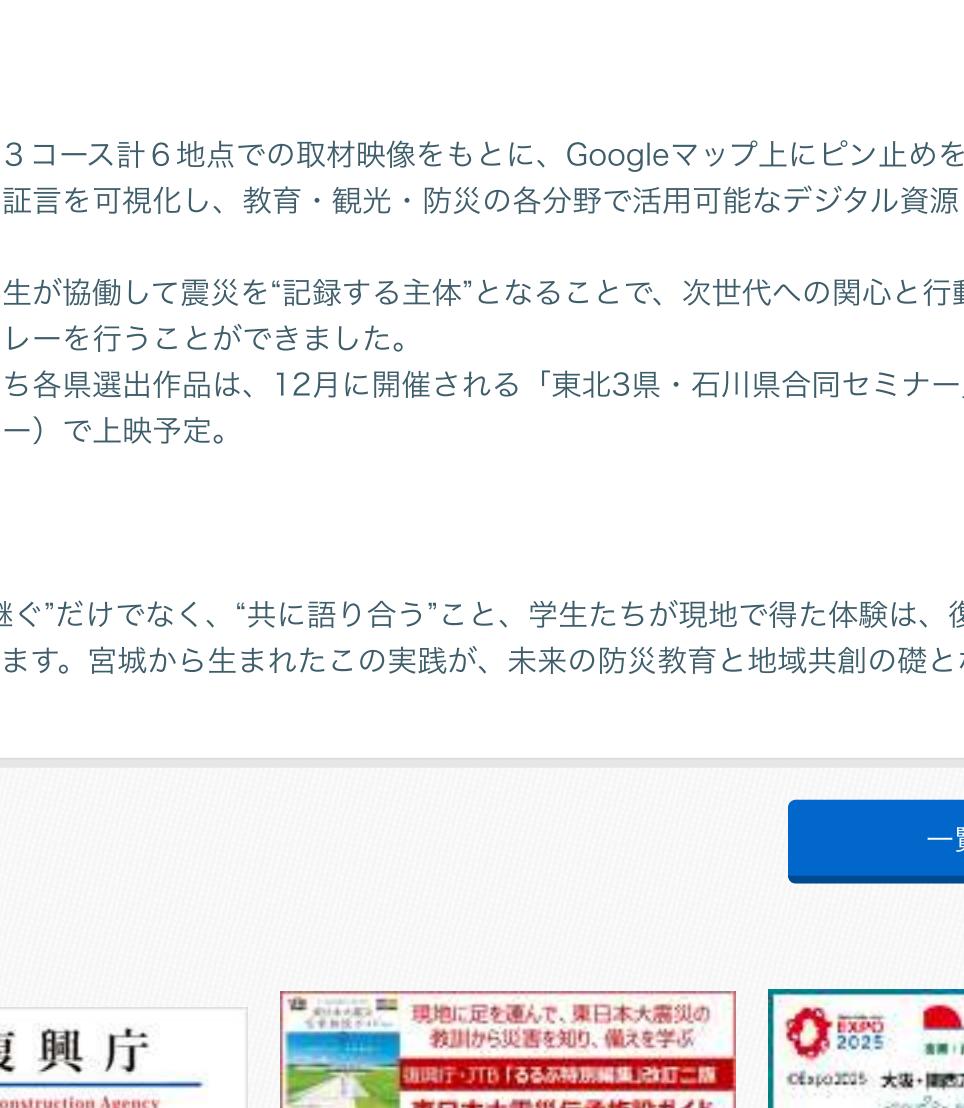
## 石巻・女川コース

訪問先：特定非営利活動法人アスヘノキボウ（丹野氏）/ 公益社団法人3.11メモリアルネットワーク（阿部氏）

学生たちは、復興を「明るさ」と「挑戦」で語る地域の担い手たちに取材を行いました。

「震災=怖い」という印象が変わり、「前を向く人々のエネルギーが地域を動かしている」と多くの学生が感じました。

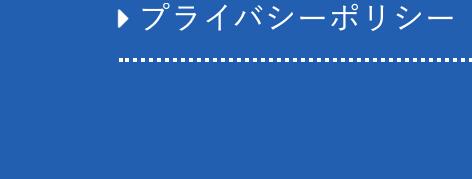
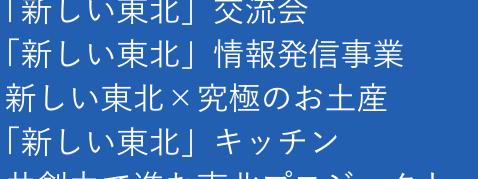
「社会課題に義務感で向き合うのではなく、自分にとっての価値を見出すことが大切」という気づきがあり、学生も学びを得ました。



## まとめ

震災を“語り継ぐ”だけでなく、“共に語り合う”こと、学生たちが現地で地域共創の基礎となることを期待しています。宮城から生まれたこの実践が、未來の防災教育と地域共創の基礎となることを期待しています。

一覧に戻る



・新しい東北とは  
・協議会の概要  
・協議会の活動例  
・設立趣意書  
・会員名簿  
・3つの分科会  
・連携・リンクバナー  
・facebookページ

・支援情報  
・会員募集・会員情報の変更  
・分野別リポータリー  
・これまでの取組・活動  
・連携・支援制度・セミナー制度  
・「新しい東北」交流会  
・「新しい東北」情報発信事業  
・「新しい東北」研究・チラシ  
・ビジネス創出東北プロジェクト  
・復興ビジネスコンテスト  
・関係人口増加プロジェクト  
・東日本大震災10年企画  
・10年を迎えた思い

・プレスリリース  
・会員の方へ（申請様式等）  
・メールマガジン登録/解除  
・ご利用にあたって  
・プライバシーポリシー

・よくある質問  
・サイトマップ  
・お問い合わせ